

## Contents

- 03 | 特集1 | 森迫清貴学長 再任にあたっての寄稿
- 05 | 特集2 | 理事・副学長寄稿
- 07 | 教育NOW | 授業紹介「地域創生課題セミナーI」
- 09 | 研究室探訪1 | デザイン・建築学系 平芳幸浩 教授
- 11 | 研究室探訪2 | 機械工学系 山口桂司 准教授
- 13 | がんばる工織大生
- 14 | 活躍する卒業生
- 15 | 美術工芸資料館収蔵品紹介
- 17 | 京都工芸繊維大学基金 寄附のご報告
- 19 | Topics
- 21 | Information



# 京都思考(KYOTO Thinking)を核として理念を見直し新しい価値を創造する

この4月より京都工芸繊維大学長として2期目を務めることになりました森迫清貴です。引き続きよろしくお願いします。

COVID-19により世界が一変し、未だにその混乱が続いています。本学も、昨年は全学生・教職員が否応なくオンライン授業を経験し、大学の授業を見直すきっかけになりました。現在は感染対策を徹底しながら、対面授業とオンライン授業を併用しています。課外活動も大学の重要な要素の一つですが、活動が困難な状態が続いています。また昨年から、海外留学を希望していた多くの学生は留学を諦めざるを得ませんでした。そのような状況の中、ワクチン接種も始まっていますが、現状を開拓するまでには至っていません。しかし、望まる経験であっても、それを糧として既存の価値を省み、今こそ新たな価値創造への可能性に挑戦するときです。

## 『京都思考』が本学の強み

来年から国立大学法人として第4期の中期目標期間に入るのを前に、理事をリーダーとする将来構想WGを立ち上げ、テーマ毎に検討を重ねてきました。その未来投資チームから生まれた本学を象徴する言葉が『京都思考(KYOTO Thinking)』です。今年正月の日本経済新聞および京都新聞の新年広告としてご覧になった方もおられるかと思います。また、現在、JR京都駅の地下1階改札内コンコースの広告ボードにも掲示しています。

歴史文化都市である京都は、長きにわたり多くの「もの」を生み出し洗練してきた、ものづくりの都でもあります。そのものづくりは、単に継承するだけではなく、革新的な挑戦を繰り返し、新しい技術を創出することによって「もの」や「わざ」を研ぎ澄ましてきました。伝統の上に革新を重ねることで、他に追随のできない「匠の技」が創造され、国内外の信用を得るに至ったのです。それは、人々の暮らしを豊かにすることを思考し、常にイノベーションを牽引しようとする京都・みやことしての自負によるものだと思います。この創造的挑戦心を育んできた京都という場のもつ力を、工学の研究・教育に活かし実践していく、これを『京都思考』と呼び、京都で歴史を重ねてきた本学の特長、強みとして打ち出しています。

## 『京都思考』を核として新しい価値を創造する3つの理念

本学が目指す理念として、すでに本学ホームページでも表明している3つの言葉を改めて紹介します。一つ目はART×SCIENCEです。アートいわゆる芸術と言われるものではなく、心を突き動かす、パッション、夢のことです。我々はイノベーションのための飛躍的発想としての科学空想的思考、すなわち現時点ではあり得ないここまで空想する思考と、緻密な分析的思考、科学的論理を掛け合わせ、融合させることによって、新価値の創造を目指します。二つ目はLOCAL×GLOBALです。質の高いものづくりと信用を大切にすることを目指す『京都思考』に加え、『地球思考』として地球的課題への取組と国際的に通用する価値を理解し、世界に展開できる新価値の創造を目指します。そして三つ目がTRADITION×INNOVATIONです。京都の歴史・文化への深い理解、その上に技術革新を繰り返すことによってできた信用ベースの価値体系と、洗練されてきた追随できない「匠の技」を掛け合わせ、新価値の創造を目指します。

## 新価値創造への仕掛け

### の素養が備わっていることが望されます。

産業界との連携に関する実績としては、これまでにも産学連携協力会加盟企業や共同研究等を実施している企業、包括協定締結企業等と教員の研究分野を中心として産学連携活動を実施してきました。今後は従来の共同研究や学術指導等の範疇を超えて、将来、先駆的・独創的な研究開発に取り組める博士人材の育成を産学協働で行ないます。さらに、3年前から京都の代表的な企業や大学と協議を重ね、今年5月、産学連携研究、人材育成を促進する産学コンソーシアム「京都クリアフォーラム」を設立し活動を始めるところとなりました。本学が大学機関の幹事校を務めます。

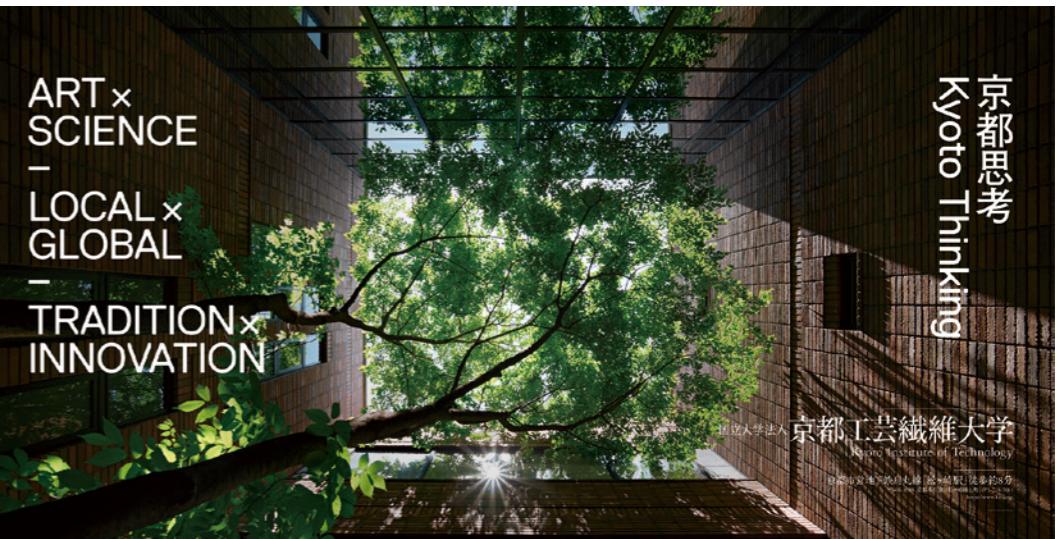
加えて、人類の未来を照らす新しい価値を創造し、社会イノベーションにつながるような研究開発に挑戦する教員群の研究創成広場「KYOTO AGORA(学庭)」を新たに創設します。学内教員に夢のあるチャレンジングなプロジェクトを募ったところ、様々な提案がありました。今後の展開が期待されます。また、これらのディスカッション・スペース等に、「和楽庵」(プラザKIT南側の研究交流施設)を使用する計画です。

## KYOTO INSTITUTE OF TECHNOLOGY

すでに、新価値創造を目指して、KYOTO Design Lab、グリーンイノベーションラボ、新素材イノベーションラボ、それぞれを軸とする大学院プログラムがスタートしています。デザイン・シンキング(注1)の実践で潜在的ニーズを掘り起こし、実装に向かうプロトモデルまでを作成する「デザインセントリックエンジニアリングプログラム(dCEP)」、材料からシステム設計のプラットフォームやアプリケーション、サービス提供まで含めて、超階層で全プロセスを考える「価値創造エンジニアリングプログラム」、そして特に材料化学分野の研究開発を対象とし、博士後期課程学生と実務家教員、本学教員とがタッグを組む「共創教育による博士人材育成プログラム」がそれにあたります。いずれのプログラムも、社会ニーズを実装につなげることを目指し、産学協働や異分野連携を積極的に行い、さらに国際連携も加えて多様性を取り入れた新価値を創造することを念頭に置く挑戦的なプログラムです。これらに参画する学生には、本学が人材育成目標としているテック・リーダー(注2)として

(注1) 変容する社会全体を見渡し、そこで生じている真のニーズの変化、材料からシステムやサービスに至る価値連鎖を俯瞰的に理解することで、個別の革新技術をイノベーションに導く方法

上：森迫清貴学長  
下：JR京都駅の地下1階  
改札内コンコースの広告ボード



# 新理事・新副学長が描く 京都工芸繊維大学の展望と 今後の抱負とは

2021年4月に

新しく理事・副学長となった8名の方々より、  
就任にあたってのメッセージを  
寄稿いただきました。



堤 直人  
特命理事・副学長  
(入試・施設・環境・情報担当)

## 脱知識提供型の授業を



齊藤 輝尚  
副学長  
(学生支援担当)

## 現代における 科学知の学際性



PEZZOTTI Giuseppe  
副学長  
(連携研究・ヘルスサイエンス担当)

## 旅の仲間



増田 新一  
副学長  
(産学公連携担当)

## 国際的な活躍を願って



亀井 加恵子  
副学長  
(国際担当)

## 京都工芸繊維大学から 飛躍的な発想を



小野 芳朗  
理事・副学長  
(大学戦略・総務担当)

## 知る喜び、作る喜び、 共に咲く喜びに向けた 教育研究



吉本 昌広  
理事・副学長  
(教育・研究・地域連携担当)

## 大学が 社会を変える



小酒井 克也  
理事・事務局長  
(人事労務・財務担当)

主に総務企画課のバックアップによる担当業務です。ひとつは本学のブランド化のために、スマートな発信を心がけて広報誌のデザイン、京都駅、松ヶ崎駅の広告、地下鉄内アナウンスなど、コスパの効いた戦略を考えます。

一方で、第3期中期目標・計画の法人評価、機関別認証評価などの大変な作業を継続しています。

また、第4期中期目標期間（令和4年度開始）に向けて、役員会における戦略案の取りまとめ役を担当しています。令和2年度から多くの教職員からご意見をいただき、近未来の本学

の将来構想のまとめをなし、そこから「大学の理念」いわゆるビジョン、ミッション、バリューを策定していく作業を一年かけて練り上げました。それは教育、入試改革に展開し、第4期中期目標・計画の策定作業や概算要求作業に反映されています。

dCEP（Design-centric Engineering Program）を2年間運営してきました。ここに、〈京都思考〉から〈地球思考〉まで見渡し、新領域発想の場 KYOTO AGORA（学庭）から「火星」へ飛ぶような飛躍的発想を生む仕組みを皆さんと共に考えていきたいと思います。

大学教育は、学生が自ら問いを立て、仲間や教員と意見を交わし、自分の考えを正し、答えを見つけ出す営みです。不易で基盤的な工学教育、時代の波へ対応する工学教育、そして、まだ見ぬ新しい時代を創り出す人材育成に向けた教育を、適切に受けられる場を作り上げ、学生が問い合わせ立て答えを見つけるよう支援することが重要です。教育の効果はすぐには現れず、未来の予測は難しいです。しかし、大学には、30年前に受けた大学教育の効果を語れる教員や、30年後の夢を語る教員らが集まっています。ともに意見を交わし、よりよい教育システムの構築を進めます。

研究の醍醐味は、「知る喜び」、「作る喜び」、「共に咲く喜び」と考えています。真理探究によって得られる知る喜びは、学術の原動力です。また、工学では、科学技術によって達成できる将来像を明確にし、社会や産業が望む新たな価値を提案して、研究開発を進めることができます。新たな価値を作る喜びは、工学の推進力です。研究の機会を広げるためには、連携が重要です。お互いを認め合う連携の先には、共に咲く喜びが待っています。学内連携に加えて、京都クオリティフォーラムなどを通じた、組織的な学外連携の開拓に努めます。

近年の急速なデジタル革新により、これまでのモノを中心とした資本集約型社会から知識や情報が価値を持つ知識集約型社会へと転換しつつあります。また、2019年に起きた新型コロナウイルス感染症は私たちの生活を含め、社会の在り方までも一変させるとともに、遠隔授業や遠隔会議などSociety 5.0に必須となるデジタル化の急速な進展をもたらしています。社会の変化が激しいとき、あるいは未知の事態への対応が迫られている時ほど、これまで長年にわたり多様な「知」や「技」を蓄積してきた大学に

対して、産業界をはじめとする社会からの期待は一層高まっています。大学は公共財としての教育研究にとどまらずその役割を拡張し、社会を変革する原動力となることが求められています。こうした大学の教育研究活動等を進めていく上では「人」と、それを支えるための「資金」は重要な資源です。このため、アフターコロナ後のニューノーマルな時代に相応しい、より働きやすい環境の整備等に取り組むとともに、財源の多様化を図りつつ、スケールメリットを活かした財務運営に尽力してまいりたいと思います。

「京」の地にある本学の魅力とは、多様な選抜で学ぶチャンスを獲得できるマルチ入試方法の提供、入学してきた学生の好奇心を惹きつけるあるいはワクワクさせる教育の提供（カリキュラムの充実）、専門の枠を越えた異分野交流や共創の場となる研究の環境とその発信（ラボの充実）、共創関係を作りながらの地域や社会との連携強化（共同研究や地域コンソーシアムの充実）、SGUなどを核に国際展開力の発展と強化（国際交流、ダブルディグリーやジョイントディグリーの充実）です。そして、風通しの良いのも本学の魅力でしょう。

これらの魅力は、ART×SCIENCE、LOCAL×GLOBAL、TRADITION×INNOVATIONの新しく定められる大学の理念のもとに教職員および学生の日々の活動から生まれてくるものであり、卒業生と共に磨かれていき、「DESIGN Thinkingデザイン思考」、「KYOTO Thinking京都思考」に集約されています。本学の構成員（学生、教員、教員、卒業生）が一体となって、自学の魅力を作り出しているのです。本学の魅力を、2030年のSociety 5.0やSDGsの世界においても、カーボンニュートラルの2050年以降もダイナミックに輝かせましょう。

テンツが得られることになります。単なる知識提供型の授業から脱却し、他では得られない価値を学生に提供できる授業に変革してゆかなければ、大学の存在価値はなくなってしまいます。幸い、本学ではトップクラスの工学教育をしており、これをもとに脱知識提供型の授業をするように変革することが可能だと思います。

安心・安全であることはもちろん、学生の皆さんに、「入学して良かった」、「卒業生・修了生として誇りに思う」と言ってもらえる教育・研究ができるよう支援して参りたいと考えています。

学者が参加すべきです。本学の未来は現代の趨勢から離れられず、その使命として本学を、社会が関心を寄せる課題に関する様々な科学を統合する世界的リーダーにすることに集中します。本学教職員は優れた技術と手段を持っており、それらを結合し、調和させることにより、生物学、栄養学、環境学に関する様々な技術が飛躍的に向上します。従って、私の仕事は本学を学際的な科学分野で眞の国際的リーダーにするために、本学および国内外の研究者を結び付け、異分野間の架け橋を作ることです。

いるのではないか。境界を越え、変化を是とし、他者を受容し、夢と野心を持って革新を実践する、そのためには風通しのよさと共感性をもって社会に向かい共に歩くパートナー=旅の仲間（fellowship）を持つことが大切です。皆様の理想とする知的活動のあり方と、本学に行けば何か面白いことが見つかるという学外からの期待感を交差させ、地域の知的コアとして社会的実践性を高めていくための「結び手」の機能をさまざまな面から強化していきます。

\*吉見俊哉「大学は何処へ 未来への設計」岩波新書 2021

# 地域創生 課題セミナーI

課程を越えて  
専門知識を結集し  
地域課題に挑む



桑原教彰 教授  
[情報工学・人間科学系]  
地域創生 Tech Program 長

**[経歴]**  
1987年04月-  
住友電気工業(株) 研究員  
1993年01月-  
(株)ATR通信システム研究所 研究員  
2002年09月-  
(株)ATR知能ロボティクス研究所 主任研究員  
2007年04月-  
京都工芸繊維大学 准教授  
2016年04月-  
京都工芸繊維大学 教授



大谷章夫 准教授  
[繊維学系]

**[経歴]**  
2009年05月-  
宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 研究員  
2012年03月-  
岐阜大学 複合材料研究センター 特任准教授  
2016年04月-  
京都工芸繊維大学 准教授



**[授業概要]**

理工系のリーダー人材に必要な  
「コミュニケーション力、リーダーシップ、  
課題解決力」を理解し育成する課目。  
特に京都府北部地域をベースに地域課題を考え、  
多分野の人材が相互に協力して解決へ導くための  
プロセスを実践的に学びます。  
ただ解決策を提案するだけでなく、  
プロトタイピングまで行うこと目標としています。

日本の重要課題として地方創生が呼ばれて久しい昨今。  
京都工芸繊維大学も地域に根差した大学として、  
地域貢献を目指した数々の取り組みを実施してきました。  
ここでは、その代表例ともいえる地域創生Tech Programの授業、  
「地域創生課題セミナーI」の活動内容について紹介します。

地元の企業から提示される  
リアルな課題の解決に挑む

京都府北部に位置し、明智光秀ゆかりの地としても知られる福知山。京都市内とはまた違った雰囲気をまとうこの街に、京都工芸繊維大学の3つのキャンパス、福知山キャンパスがあります。キャンパスは2018年に開講。京都府北部を舞台とした課題解決型プログラム「地域創生Tech Program」の活動拠点となっています。本プログラムでは1年次のうちから、自治体の提示する課題に取り組む「地域課題導入セミナー」などの課題解決型学習に挑戦。2年次には各課程の専門知識の修得に励みます。そして、その専門知識を生かし、より専門的・実践的な地域課題に挑むのが3年次の「地域創生課題セミナーI」です。「このセミナーでは企業から課題を出していただき、課程横断型で3~4人の学生チームを組んで、2カ月間で集中的に課題解決に取り組みます」と話すのは情報工学・人間科学系の桑原教彰先生。セミナーで指導を担当する教員の一人です。学生と同様に、教員チームも課程を横断する形で構成し、多様性を確保しています。今回は、同じく授業に携わる繊維学系の大谷章夫先生にもお話を伺いました。

地域創生課題セミナーIに参加する企業は毎年変わり、提示される課題も多岐にわたります。2020年度は、5つの企業から次の課題が与えられました。

- (1) 若宮酒造「酒造りの楽しさを伝える見学コースと店舗レイアウトの提案と試作」
- (2) グンゼ「浮世絵を用いたグンゼ博物苑の集客アイデア」
- (3) 本田味噌本店「採用専用HPに接続するランディングページのコンテンツ提案」
- (4) 堀場エステック「イノベータイプなオフィス環境の提案と試作～技術者の創造意欲をかきたてるには～」
- (5) エフエムあやべ「AtoZを用いて地域の脱炭素社会の可能性を発見する番組の提案」

学生たちはそれぞれ現状の課題の把握から始め、課題達成のためのゴールを設定し、達成に向けた具体的な方法を考案。工夫を凝らしたアイデアを各企業に提案しました。

実際に採用された  
堀場エステックへの提案

2カ月間にわたりて課題解決に取り組んだのち、学生たちは企業の方に向けて最終プレゼンテーションを実施。その内容を受けて、各企業で具体的な取り組みを進めています。「イノベータイプなオフィス環境の提案と試作」という課題を出した堀場エステックでは、早速学生のアイデアを取り入れたオフィス改革を行っていることで、今回オフィス内を取材させていただきました。

採用されたのは「よりどり緑オフィス」と名付けられた提案。緑を感じる芝生スペースを設けるとともに、「リラックス」「運動」「交流」のスペースに分けて、状況に応じて働く場所を選べるというものです。「イノベータイプなオフィスというのは、結構あいまいなテーマで難しかったはず。学生にとってもチャレンジングだった」と大谷先生は語ります。そうした答えのない問い合わせに対して、学生たちはどのように立ち向かっていったのでしょうか。提案に携わったデザイン・建築学課程の中川桂さんは次のように話してくれました。「まずはオフィスの先行事例を調べました。その上で、KJ法を用いて思いついたアイデアをどんどん書き出していく、種類ごとに分類してまとめていました。また、社員の方に対して1日の働き方についての調査も行い、根拠に基づいた提案を行いました」。中川さんは、壁の代わりに柱を使って空間を適度に区切る「柱のオフィス」を提案。今回は惜しまれ採用には至りませんでしたが、これまでにない新しいオフィスの在り方を提示することができました。「指導面では、学生にいかに自由に意見を出させるかを心がけています。とにかくどんな意見でも、できるだけ発散する方向に持っていくたい。ただ出せと言っても出ないので、うまくきっかけを与えて、グループ内で意見が出しやすい環境になるように働きかけたりしています」と大谷先生。授業時に意識していることについて、桑原先生もこう話します。「まずは学生のグループを組む時に、同じタイプの人が固まらないようにしています。教員も専門性が偏らないように、大谷先生や他の先生にもディスカッションに加わってもらい、多面的な考え方を取り入れるようにしています。さらに、スチューデントアシスタント(SA)としてOB・OGを巻き込む取り組みも始めました」。今回は、地域創生Tech Programを卒



Fig.1——活動を振り返り、思い出話に花が咲く（中央左：木村さん、中央右：中川さん）



Fig.2——提案をもとに改修されたオフィスを見学

業して大学院に進んだ木村捷人さんがSAとして参加。「私は学部生の時、日本ピラー工業に対する『快適なクリーンルームの提案』に携わりました。その際に、人間の五感を重視した提案をしたのですが、オフィス環境のテーマと通じるところがあるように思います。その経験を踏まえて、みんなにアドバイスを行いました」

堀場エステックのオフィス取材時に、社員の方から生の声を聞くことができました。「私たちが勤める福知山テクノロジーセンターは新技術の開発に取り組んでいて、クリエイティブな発想が重要になります。気分や業務に応じて、多様な仕事環境を選択できるのがいいなと思いました。実

際に2021年1月からオフィス改装を始め、どんどん拡張しています。利用者も増えており、社員から『こうしたらもっとよくなるのでは』と意見が出てきました。今回いただいた提案をきっかけに、自分たちでオフィスを変えていく意識が生まれたように感じます」。それを聞いた中川さん。「提案して終わりではなく、実際につくってもらえてとても嬉しい。それも、ほぼ提案の図面通りで驚きました」と喜びをあらわにしました。

さらなる地域貢献を目指して

京都府北部地域の課題解決に大きく寄与して

いる地域創生課題セミナーI。最後に、今後の展望について先生方に伺いました。

「私は障がい者支援や作業所などについて研究しているんですが、そうした方々の雇用につながるような新しい地域の商材・商品をつくることで、地域貢献を実現していきたいと考えています」(桑原先生)

「高等教育は大学の重要な使命ですが、本学はそれに加えて、学生と社会をつなげる懸け橋の役目を担っていきたい。専門教育を行うだけでなく、地域社会の一員として活躍できる人材を輩出する場でありたいと思います」(大谷先生)

# 現代芸術論 研究室

受容の観点から  
作家・作品の  
価値を探求する



平芳幸浩 教授  
[デザイン・建築学系]

[経歴]  
2000年04月-  
国立国際美術館 研究員  
2003年07月-  
国立国際美術館 主任研究員  
2008年04月-  
京都工芸織維大学 准教授  
2020年04月-  
京都工芸織維大学 教授

[研究分野]  
美術史、近現代美術、受容理論、視覚文化研究



現代芸術論研究室

[研究概要]  
近代以降の芸術家のオーバリティを  
受容理論的立場から相対化し、  
複製技術時代以降の芸術作品のオリジナリティを  
再考することをテーマとしています。  
芸術を芸術家の個人的な営為としてではなく、  
他者による受容と解釈の連鎖として  
捉え直すことで、芸術活動を多角的に再考し、  
旧来の「作家論」では見えてこない  
芸術の成立要件を浮き彫りにすることを  
目指しています。

20世紀を代表する芸術家であるマルセル・デュシャン。  
現代美術の父とも呼ばれ、その作品は大きな議論を呼びました。  
デュシャンが美術に与えてきた影響とは、またその人物像とは。  
「マルセル・デュシャンと20世紀美術」展（2004）の企画にも携わった  
現代芸術論研究室の平芳先生に話を伺いました。

## 伝統的な芸術家とは 違った顔を持つデュシャン

「好きな作家を一人挙げるとすると、間違いないデュシャンって言いますね。彼の考えていることが自分にとってすごく面白くて、彼の思考や作品をベースにして考える作業がやっぱり楽しいんでしょうね」。そう話すのは平芳先生。デュシャンが戦後のアメリカでどのように受容されてきたか、また1920年代から今日までの約100年間にわたって、日本でデュシャンがどのように受容され解釈してきたかについて研究を行っています。デュシャンとは、どのような作家なのでしょうか。「一般的に有名なのは、モナ・リザの複製画にひげを描いたり、あるいは男性の小便器を展覧会に出品したり、といった話です。要はスキンシップを引き起こすような、今でいう炎上系の作家の走りのような印象がありますね。兄が2人とも先に芸術家になっていて、デュシャンも芸術家を目指していたんですが、いわゆる伝統的な芸術家然とした生き方が嫌だったようです。自分の表現を突き詰めていった結果、美術の因習を次々と潰していくような形になり、それが後に伝説的に語られるようになっていきました」。作品そのものよりも、人物そのものが神格化されている点に興味を持ち、デュシャンに心を引かれていたという先生。そこから今の研究がスタートしました。「ちょうど僕が大学院に入って美術史学を学び始めた頃は、その美術史学を少し考え方直そうという時代だったんですね。それまでの美術史学は、ピカソやダ・ヴィンチなどすごい作家がいて、彼らがどのような作品を残してきたのかを細かく分析するというものでした。でも、美術作品は作家一人のものではなくて、例えばお金を出しているパトロンのものであったり、時の権力者の意向が反映されていました。あるいは、ゴッホなどは特にそうですが、後の時代に評価が大きく変わることもあります。それで、何が美術の価値なのかを学問的にもう一度問い合わせ直す動きがあった。その中でデュシャンがいなければ、美術はこんなにひどくはならないかっただろうと言う人もいます。客観的に美術の歴史を記述しなさいとなったら、超一流の作家という評価になると思いますけどね。デュシャンを無視すると、少なくとも20世紀の後半以降の美術について説明ができなくなるんです」。まさにその価値を示すかのように、「最も影響を与えた20世紀アート作品」のランキングでは

## 調査を通じて見えてきたデュシャン像

作品はほとんどがアメリカのフィラデルフィアにあり、その作品はほとんど見たという先生。普段の研究は基本的に文献調査です。また最近では、日本の戦後美術の作家たちがデュシャンをどのように捉えてきたのかを探るべく、存命の作家へのインタビューも実施しました。そうした調査から、どのようなデュシャン像が浮かんできたのでしょうか。「調べれば調べるほど、話を聞けば聞くほど、いろんなデュシャン像があると感じます。皆さんそれぞれに異なるバックボーン、問題意識があって、それがデュシャンの理解はどう反映されているのかを見ると、一つの作品を見ているみたいで面白いですね」。定まったデュシャン像はないとの答えでしたが、先生にとってのデュシャンとはどのような人なのでしょうか。「生前の彼は知らないので、人格的にどうなのかなはいろんな証言がありますが、なかなか本質をつかみ切るのが難しい人で、その辺は語り尽くせない部分があります。あとは、エスの名プレイヤーだったんですね。それがあつて、他人との駆け引きがすごく巧みな人物なんです。相手によって全く振る舞いを変えてしまったりするような人なので、人間的には嫌な奴なんですね（笑）。生真面目な人は嫌いだったみたいで、相手がそぞろと徹底的にふざけるという悪い癖はあったみたいで。そういう部分は好きですね」。その上で「デュシャンについての正解を出そうとしている研究でもないんですよ」と先生は言います。「アーティストがやつてきたことの価値は一つではない、というのを歴史研究として証明する、それが研究における狙いです」

デュシャンの作家としての評価は、現在ではどうなっているのでしょうか。「いまだに評価する人としない人で分かれています。デュシャンがいなければ、美術はこんなにひどくはならないかっただろうと言う人もいます。客観的に美術の歴史を記述しなさいとなったら、超一流の作家という評価になると思いますけどね。デュシャンを無視すると、少なくとも20世紀の後半以降の美術について説明ができなくなるんです」。まさにその価値を示すかのように、「最も影響を与えた20世紀アート作品」のランキングでは



Fig.1——研究や指導と並行して美術工芸資料館でのデザイン資料の管理や展覧会企画も担っている。



Fig.2——最新の研究成果『日本現代美術とマルセル・デュシャン』  
表紙は現代美術家森村泰昌の作品



Fig.3——デュシャンが残したメモの一葉。走り書きで作家の息遣いを感じられる。

ピカソの《アビニヨンの娘たち》を抑え、デュシャンの便器の作品、《泉》が第1位に選ばれています。

また研究室では、学生たちも各自のテーマで研究に取り組んでいます。研究指導を行う時に意識している点について、先生は次のように話してくれました。「大学生は答えを見つけるのは結構早いので、答えを見つけるというよりも、問題を見つけることをなるべくやらせようと心掛けています。どこに問題があるのかを探るのは、研究をしていく上で最初に重要なポイントだと思います」

## デュシャンをより深く知るために

これまでに研究成果をまとめた書籍『マルセル・デュシャンとアメリカ：戦後アメリカ美術の進展とデュシャン受容の変遷』（ナカニシヤ出版、2016）『マルセル・デュシャンとは何か』（河出書房新社、2018）『日本現代美術とマルセル・デュシャン』（思文閣出版、2021）を著している平芳先生。「基本的には僕の研究は、デュシャンがどのように理解してきたか、受容されてきたかがテーマなので、極端な話をするときわがありません」と語ります。時が経ち、場所が変われば、また違った見方が出てくる。そ

れを追っていくと、研究はどこまでも続いているのです。そんな中で今後の目標について、先生はこう話します。「一つやりたいと思っていることがあります。今まで全然手をつけていなかつたんですが、デュシャンが書き残したメモを、自分なりにもう一度検討し直して、冊子ではない形で出版したい。ばらばらの状態で、読む人が自由にメモを拾い上げて読めるようなのです。デュシャン自身も生前、メモの複写版をばらばらの紙片のまま箱詰めした状態で出版していました。そうした文献に当たり、内容を読み込んで研究を進めたいと思います」

# 機能表面加工学 研究室

表面加工で  
材料が持つ  
可能性を引き出す



山口桂司 准教授  
[機械工学系]

[経歴]  
2011年04月-  
京都工芸織維大学 助教  
2020年02月-  
京都工芸織維大学 准教授

[研究分野]  
研削加工、研磨加工、微細加工、光化学反応、  
SiC、ダイヤモンド、チタン合金



[研究概要]  
SiCやGaNといった加工が困難な材料に対して、  
紫外光照射による光化学反応や  
メカノケミカル反応を利用した  
鏡面加工法を開発しています。  
また、材料表面に  
微細な構造を付与することによる  
表面機能創成に取り組んでいます。

切る、削る、研く、曲げる、溶かす、付ける—

私たちは材料をさまざまな方法で加工し、

形状や機能を与えて自分たちの暮らしに役立てています。

機能表面加工学研究室では、特に材料表面の加工にフォーカス。

工業や医療の発展に資する新たな加工法を探究しています。

## 半導体の性能を引き出す

### 「鏡面加工」の技術

炭化ケイ素（SiC）や窒化ガリウム（GaN）、チタン合金にダイヤモンド。これらは、機能表面加工学研究室で研究のターゲットとしている材料の一例です。その表面加工がテーマとなっていますが、具体的にはどのようなことをされているのでしょうか。山口先生に話を伺うと、次のように話してくれました。「研究テーマについては、大きく2つあります。それが、鏡面加工とテクスチャリングです」

鏡面加工とは文字通り、加工物の表面を鏡のように平滑に仕上げる加工のこと。山口先生は特に、SiCやダイヤモンドなどの硬くて脆い材料の鏡面加工について研究しています。「SiC基板の鏡面加工は私が学生時代から取り組んできたテーマです。半導体の製造においては、極めて平滑な表面を持った基板が求められます。要求される表面粗さを具体的な数値で言うと、わずか0.5ナノメートルというレベルです」。

半導体は導体と絶縁体の中間の性質を持つた物質で、電気を流したり流さなかったりできる特性があります。しかし、表面が粗く凹凸があると半導体としての特性を十分に発揮できなくなると言います。「材料の機能をどれだけ引き出せるかは、鏡面加工の精度によると感じています。特に半導体デバイスの場合は、加工した表面だけでなく、その少し下の層の品質まで重要な要素であります。いかにパーフェクトな面を得るかが求められます。そして私はもう一つ、そうした鏡面をできるだけ早く、安く、簡単に得られるようにすることを目指しています」。

先ほど話に出てきたSiCは、次世代のパワーデバイス材料として注目されていますが、コストが高く、まだ一部でしか使われていません。加工にかかるコストを下げられれば、高機能な半導体デバイスの本格的な社会実装が近づくと期待されます。

先生が研究されている、今までよりも早く、安く、簡単な加工法とはどのようなものなのでしょうか。「私がやっているのは、紫外線照射による表面改質を利用し、材料表面を削るという加工法です。材料に紫外線を照射すると表面が酸化し、元の材質よりも軟らかくなることが分かっています。そして削る工具の硬さを選択する時に、SiCよりも軟

らかく、紫外線照射によってできる酸化物よりも硬いものを選ぶ。すると、表面に生成した酸化物には傷を受けられる一方でSiCそのものは傷付けない、ということができるようになります」と山口先生。SiCのような硬いものを削る場合、一般的にはダイヤモンドを用いることが多いそうです。しかし、硬いもので機械的にひっかいて削ると、表面の下に「加工変質層」という原子構造が乱れた層が残ってしまいます。そして、その層を除去するために化学的機械研磨（CMP）と呼ばれる工程が必要となり、時間も手間もかかります。「紫外線を使えば加工変質層がなくなる、という話ではありませんが、かなり小さくできることがわかっています。加工変質層を小さくできれば、ウェハ製造に要する時間を短縮し、コストを下げるることができます」。品質面とコスト面、両方の課題を一括して解決するこの技術。実用化に至れば、半導体製造のプロセスは大きく変わらはずです。

紫外線照射による光化学反応を利用して、ダイヤモンドの研磨にも挑戦しているという山口先生。今後も、さまざまな材料への応用が期待されます。

## 材料に新たな機能を持たせる

### 「テクスチャリング」

鏡面加工とともに研究テーマとして挙げられているテクスチャリング。いったいどのような技術なのでしょうか。山口先生はこう話します。「テクスチャリングとは、表面に微細な形状（テクスチャ）を付与することを指します。これは研磨とはまた少し違って、本来材料が持たない機能を付与することを目指しています」。

先ほど話に出てきたハスの葉。ロータス・エフェクトと言われますが、ハスの葉っぱは水をはじき、ぬれないようになっています。これは、表面に微細な突起があるためです。極端な例になりますが、車のフロントガラスには撥水コーティングを施すことがあります。ガラス自身に突起があればコーティングなしで撥水効果を得ることも可能になります」。



Fig.1——顕微鏡による材料表面の観察の様子

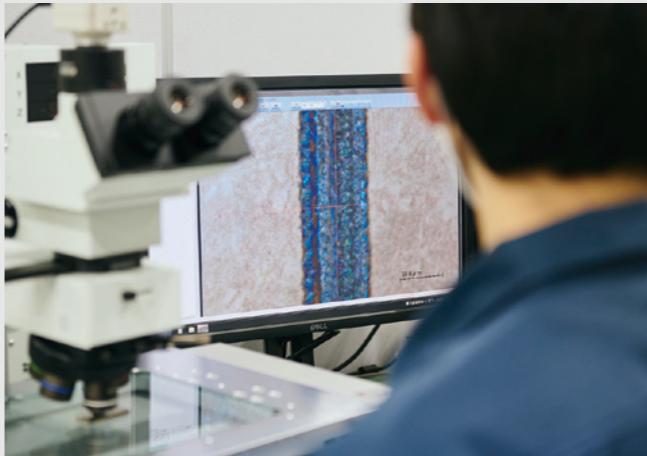


Fig.2——チタン合金にレーザー加工によって色を付けた例



Fig.3——SiCやダイヤモンドなどの鏡面研磨の様子

すね。人工関節などに使われる材質です。この材料にテクスチャリングを施すことで、生体骨と人工関節との密着性を高められます。これはよく知られていることで、実際のインプラントにもシリコンが入っていたり、ざらざらしてたりします。そうした構造を簡単に安く、誰でも加工できるような方法を研究中です。材料からの削り出しから、テクスチャを付けるところまでを同じ工作機械で実現できるようにしたいと考えています」

## 表面加工技術に さらに磨きをかけていく

今後の展望について伺うと、先生は次のよ

うに応えてくれました。「鏡面加工では『誰よりも高能率に、誰よりも高品位に』という一貫プロセスをつくりたい。実際の製造の場面では、材料を切って薄くして、表面をきれいにして、複数の工程でものができていくのですが、他の研究では単一の工程を研究対象としている場合がほとんど。こうしたすべての工程を丸ごと何らかのプロセスに置き換える試みはありませんので、私は紫外線を使ってそれを成し遂げたいと考えています。もう一方のテクスチャリングについては、今はマイクロメートルオーダーのテクスチャがほとんどですが、ナノメートルオーダーを実現したい。テクスチャのサイズを小さく追い込むのは難しいですが、そこを進むと見える世界

が変わってくるでしょう。まずは滅菌・抗菌作用を持ったインプラントの製作を目指します。ウイルスより小さいオーダーのテクスチャを付与することで、ウイルスが触ると細胞が壊されて死滅するような構造を簡単につくれないかなとプランを練っているところです」

「予想と反する結果が出てきた時に、それがどのような現象なのかを突き止めていく作業が非常に面白い」とも語ってくれた山口先生。予想外を楽しみながら、今後も革新的な技術の探究は続きます。

## 【がんばる工織大生 | Active KIT students】

# 2020年度 学生の表彰

本学では、学会での受賞など学術研究活動において優秀な成績を収めた学生や、課外活動及び社会活動などで活躍した学生を対象に学生表彰を実施しています。

## 学業成績優秀者

所属	表彰者氏名	所属	表彰者氏名
応用生物学課程4年	西田 晴香	情報工学課程4年	福本 和寿
生体分子応用化学課程4年	秋田 楓	機械工学課程4年	池田 高浩
高分子機能工学課程4年	池野 裕貴	デザイン経営工学課程4年	前原 茉莉子
物質工学課程4年	千代 茜絵	デザイン・建築学課程4年	竹田 朱音
電子システム工学課程4年	野池 峻平		

## 学術研究活動

所属	表彰者氏名	受賞理由
応用生物学専攻2年	湯浅 春奈	・国際学術誌への掲載 1件 ・国内学会発表 2件
物質合成化学専攻2年	小林 亮介	・国際学術誌への掲載 4件（うちcover feature採用2件） ・国内学会発表 1件 ・国内学会ポスター発表 3件
機能物質化学専攻2年	山口 修平	・第59回電子スピンサイエンス学会年会 優秀ポスター賞 ・国際学術誌への掲載 1件 ・国内学会ポスター発表 1件
電子システム工学専攻1年	稻本 純也	・国際学術誌への掲載 2件 ・国内学会発表 2件 ・日本の研究.comに記事掲載 ・京都工芸繊維大学ホームページにプレスリリース掲載 ・神戸大学ホームページにプレスリリース掲載
機械設計学専攻2年	横山 雄之	・日本機械学会 関西支部第95期定期総会講演会 メカボケーション学生研究発表 優秀ポスター賞 ・国際学術誌への掲載 1件 ・国際学会発表 1件 ・国内学会発表 3件
機械物理学専攻1年	山中 波人	・日本材料学会関西支部 第15回若手シンポジウム 優秀発表支部長賞 ・国際学術誌への掲載 1件 ・国際学会発表 2件 ・国内学会発表 3件
バイオテクノロジー専攻3年	丸田 莉奈	・国際学術誌への掲載 4件 ・国際学会発表 1件 ・国内学会発表 3件 ・独立行政法人日本学术振興会特別研究員DC2採用
物質・材料化学専攻2年	大松 照政	・国際学術誌への掲載 1件（back cover採用） ・国内学会ポスター発表 1件 ・国際学会ポスター発表 1件 ・京都工芸繊維大学基金奨学生採用 ・独立行政法人日本学术振興会特別研究員DC2採用
電子システム工学専攻1年	新田 悠汰	・IMFEDK Poster Paper Award ・国際学術雑誌への掲載 3件 ・国際学会発表 2件 ・国際学会発表 7件 ・2020年度 旭硝子財団奨学プログラム採用 ・2019年度パワーアカデミー研究助成 萌芽研究採用

## 課外活動

所属	表彰者氏名・団体名	受賞理由
建築学専攻2年	北村 泰之	・K-DESIGN AWARD 2020 GRAND PRIZE ・グッドデザイン賞 2020 ・35th World Architecture Community Awards 名誉会員及び一般会員賞 ・2020 ARCHITECTURE MASTERPRIZE ・DFA Design for Asia Awards 2020 Silver Award (銀賞) ・LOOP Design Awards 2020 Honorable Mention (佳作) ・28TH Asia Pacific Interior Design Awards 2020 Honorable Mention (佳作) ・令和2年度住まいのインテリアコーディネーションコンテスト 新築部門優秀賞 ・サンワカンバニーデザインアワード2020 施工事例部門 新人賞 ・Novum Design Award 2021 Golden NDA Winner (金賞)
-	Fliegen20	・第16回全日本学生室内飛行ロボットコンテスト飛行競技（マルチコプター部門） 第1位ACSL賞
-	MeasLab	・第18回流れの夢コンテスト 日本機械学会流体工学部門 最優秀賞

## 【活躍する卒業生 | Active graduates】

## 松尾樹 | まつお・たつる 味の素AGF株式会社(AGF関東株式会社出向) 管理部 品質管理グループ 第2係 係長



松尾樹

2014年度  
大学院工芸科学研究科  
博士前期課程  
応用生物学専攻 修了

Fig.1——大学院修了式での様子



Fig.2——コーヒーの官能検査

### 設備だけでなく人間関係にも 恵まれた研究室生活

京都工芸繊維大学を受験した際は小さな大学だなと思いましたが、入学後はその小ささが良いところだと思うようになりました。初めての1人暮らしで不安もありましたが、応用生物学課程の同窓生は40名程だったこともあり、農場実習やテスト後にはみんなで打ち上げや旅行をして楽しく学生生活を送ることができました。

勉学での一番の思い出は、昆虫バイオメディカル教育研究センターでの3年間の研究室生活です。設備、備品なども十分にあり環境には非常に恵まれており、風通しがよくドクターの方や先生への相談もしやすく、研究の進め方、実験手法、知識、文章の書き方や資料の作り方など多岐にわたりご指導いただきました。研究内容自体は、4回生の時はなかなかいい結果が得られませんでしたが、その分いろいろな論文を読み、小さな結果でも次に活かすにはどうすれば良いのか自分なりに考察し、先輩、先生に相談していました。相談した際には、適切なアドバイスをいただけたり、「それおもしろいね」と言っていただけたりして下級生の意見にちゃんと耳を傾けてくださる研究室だったので、研究を進めるために何をしたらいいのか、まず自分自身で考えるようになりました。大学院からは、「おもしろいね」と言っていただけたテーマを研究し何度か学会発表もしました。実験結果から研究の進め方を考えることが楽しく、周囲のサポートもあり非常にいい経験ができた研究室生活だったと思っています。

研究室生活を通じて得られた基礎的な研究手法や、現状から問題を解決するための考え方方は今でも役に立っていると思います。

### 品質管理を通じて よりよい製品をお客様に

就職先である味の素AGFは、コーヒーを中心に嗜好飲料を提供することで社会にやすらぎと健康を提供して

います。現在は味の素AGFの生産会社であるAGF関東の品質管理グループ第2係で勤務し、①製品検査、②食品安全マネジメントシステムであるFSSC22000の運営、③クレーム対応を中心に業務を行っています。①では、微生物検査、風味の官能検査、外観検査を行い製品が問題ないか最終確認をし、出荷の判断を行っています。②では、原料受け入れから製造プロセス、出荷までの全体の中における品質面の課題、トラブルを解決できるように定期的に製造部と会議を行い改善や予防処置を行っています。③では、一つ一つのクレームに対してその製品が生産されたときの状態を確認し真摯に回答を行っています。関わっているプロジェクトが無事に進みだした時はもちろんやりがいを感じますが、一番はお客様からのお褒めの声です。味の素AGFでは、お客様相談センターで受け付けたクレーム、お褒めの声を毎日配信していますが、自分が関わった商品についてお褒めの声をいただいた際にはとてもやりがいを感じます。

### 大学では時間の使い方を 意識することが大切

大学時代は時間があるので、いろんなことをやって仲のいい友人を多く作ったほうが良いと思います。最近は新型コロナウイルスの影響で会えていませんが、大学時代の友人は定期的に集まっており良い息抜きになっています。京都工芸繊維大学は理系単科大学ですが、多様な学科があるので大学内でも十分面白い友人を作ることができます。

社会人になった後だからこそ思うのですが、勉学については、スケジュールを意識してPDCAを回せるように研究に取り組んだ方が良いと思いました。大学だと夜更かしながら実験、資料作りができるが社会人だとそうはいかないので、1日、1週間、1ヶ月、4半期で何をするのか、どこまで結果を出すのか計画を立て仕事をしています。大学の研究室でこれが出来ていたら、もっと実験が進んだのだろうなと思います。

研究室生活で学んだ問題解決のための考え方には  
社会人になった今でも役立っている。

## 浅井忠と美術教科書

本学の前身校のひとつである京都高等工芸学校に、明治35年（1902）の開校とともに設置された図案科の初代教授である浅井忠（1856-1907）が、明治を代表する洋画家のひとりであることはひろく知られている。しかし、浅井は、それに加えて、美術の「教育者」としてもひろく知られる存在であった。それは、浅井が著した教科書に由来する。

本稿では、浅井が手がけた美術の教科書に焦点をあてて、京都高等工芸学校とのかわりを考えてみたい。ただし、現在本学が所蔵する浅井忠による教科書は、いずれも、近年寄贈を受けたものなので、開学当時に使用されていたものではない。

明治初期において、伝統的な日本画の教育・指導はおもに工房單位でおこなわれていた。そこで展開されたのは、粉本（手本）を写してゆく「臨画」という教育であった。一方で、洋画に関しては、日本画ほどの徒弟制度的な教育ではなく、画塾的な様相の強いものであった。そこでは、絵画指導と合わせて、洋画 자체の普及活動もおこなわれた。その活動の一環として積極的につくられたのが「教科書」である。

明治期の教育改革のなかで、文部省は、小学校に「野画」、中学校に「画学」を設置して美術教育がはじまる。そこで繰り広げられた伝統的な日本画と新來の洋画とのあいだのせめぎ合いは、そのまま、政府内での守旧派と開明派の争いでもあった。そして、開明派が中心になって改革を進めてゆくなかで、明治4年に、最初の西洋画教科書である『西画指南』が刊行される。この『西画指南』は英國人Robert Scott Burnによる The Illustrated Drawing Book (1857) を、當時洋画研究の第一人者であった川上冬崖が翻訳し上記を踏まえたうえで、浅井忠の教科書と京都高等工芸学校の関係を記しておきたい。

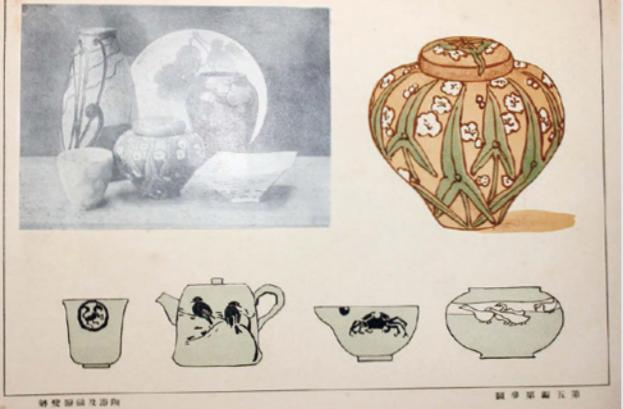


图2 「訂正浅井自在画臨本」第5編より



图3 展示風景

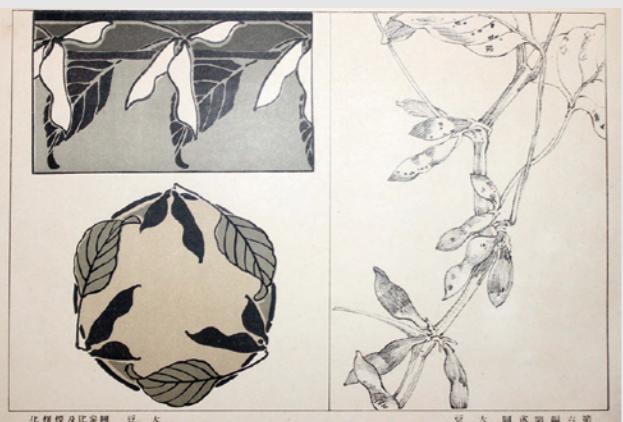


图4 「訂正浅井自在画臨本」第6編より

明治39年12月の奥書がある浅井忠著『自在画臨本』(金港堂)の緒言を見ると、「簡単ナル幾何・形体・器具・動植物類ヨリ始メテ、順次風景人物ヲモ配合シ各種ノ描法ヲ学バシメ、終ニ附スルニ図案ノ教材ヲ以テシテ、自在画ノ練習ト共ニ写生ノ方法ヲ授ケ図案ノ組織ヲ示して工芸的の思想ヲ養成セシメンコトヲ務メタリ」と記し、「図案」のつくり方や工芸的思想の養成を視野に入れていることがわかる。自在画とは、写生や臨画による絵画制作で、それに対する語として、「幾何画」「用器画」があり、それは直線や曲線を用いた图形に近いものを想定すればよいだろう。そして、巻頭言の最後には「工芸的の思想ヲ養成セン為メ、図案ヲ配置セリ(略)巻頭植物写生ヲ挿入シテ其写生ニヨリテ其模様化シタル方法ヲ示シタリ」と記して模様化・図案化の道筋を示している。しかし、明治36年2月

に刊行された浅井忠著『自在画教科書』(金港堂)には巻頭に「簡単ナル幾何・形体・器具・動植物類ヨリ始メテ、順次風景人物ヲモ配合シ各種ノ描法ヲ学バシメンコトヲ務メタリ」とし、第1、2編が「施影略画」第3、4、5編が「施影密画」、第6編が「水彩画」という構成を記すのみである。つまり、この段階では、「工芸的思想考」「図案」「模様化」という考え方は盛り込まれていない。ここでは、陰影法を駆使した「洋画的」表現が教育の基本になつてゐる。以上から、明治35年開校の京都高等工芸学校図案科での教育経験、さらに、明治36年に結成された遊陶園などによる図案指導を経て、浅井の教科書のなかに「図案」「工芸的の思想」という考え方が入ってきたと考えられる。

また、『訂正浅井自在画臨本』には幾葉かの写真が貼り付けられており、緒言にも「写真ヲ利用シテ描写ノ方法ヲ明カニシ」と記されている。その写真の一枚(図2)をみると6点の陶磁器類を並べていることがわかるが、この陶磁器はいずれも現在でも美術工芸資料館に収蔵されている資料(図3)であり、浅井が教科書を作成する際に、京都高等工芸学校の図案科で教材として購入した工芸品を使用していたことが明らかとなつた。さらに、美術工芸資料館には当時のカリキュラムのなかで課題として制作された生徒作品が保存されているが、そこで展開されている写生から図案をつくる工程と同様の工程を示す図が教科書にも「図案化及模様化」として収録されている(図4)。

明治35年に京都高等工芸学校に赴任する前の浅井は、洋画の第一人者を自負していたが、約2年間のパリでの生活を経て、中澤岩太の要請により京都高等工芸学校の図案科教授に転身したことにより、図案におおきな関心を寄せるようになつた。このことが、これらの教科書の前言から明らかになる。また、現在でも美術工芸資料館に収蔵されている美術工芸品が、たしかに浅井忠による美術・図案教育のために用いられていたということ、さらには、京都高等工芸学校での教育がそのまま市販の教科書での図案教育につながつていることも、これらの教科書から明らかになるのである。

たものである。対象を正確に捉えることのできる「技術」であると考えられた油彩画の位置を反映した教科書である。その後、明治5年に『国法階梯』、明治6年に『小学画学書』が刊行されている。そのようななかで明治15年に浅井忠と高橋由一の息子源吉が天絵学舎(発行人高橋由一)から刊行したのが『習画帖』4編21巻である。以下、京都新聞社刊『没後90年記念浅井忠展』(1998年)にもとづいて浅井の教科書制作について概観してみたい。

浅井は明治12年9月に東京師範学校助訓となり、明治14年には助教論に任じられるが、同年中に退官している。その翌年3月に『習画帖』を刊行している。明治18年にはやはり高橋源吉と共著で、今度は文部省の依頼を受けて『小学習画帖』8編を文部省編纂局から刊行。浅井が、洋画界における実質的なデビュー作ともいえる「農夫帰路」(ひろしま美術館)を東京府工芸品共進会に出品したのが明治20年なので、浅井の教科書へのかかわりはかなり早い時期に始まっていたことがわかる。

明治27年には、日清戦争に従軍する直前に『新撰小学画手本』(団々社)を刊行しており、帰國後の明治28年8月には『中学画手本』8巻を金港堂から出版している。さらに、明治29年1月に吉川弘文館から『彩画初步』7集と別巻1を、2月に『新撰小学画手本』8冊を金港堂から、9月に『彩画入门』2冊を吉川弘文館から刊行している。金子一夫「明治後期中等学校採用図画教科書の諸相」明治40、43年度「使用教科図書表」の分析による三系統図画教科書採用率の解説」(『美術教育』25号、2004年)に所載されている文部大臣官房図書課編『現在使用教科図書表 明治四十年度』(大日本図書、明治41年8月)によると、明治40年の段階においても浅井忠の『彩画初步』『彩画入门』は、小山正太郎の『中等画学



图1 「訂正浅井自在画臨本」(京都工芸織維大学附属図書館蔵)

臨本』(明治29年4月)とともに全国的にもつとも使用されていた鉛筆画教科書であった。明治33年2月浅井はパリ万博監査官としてパリに向かうことになるが、渡欧中にも、明治33年4月に『中學習画帖』(吉川弘文館)8冊、10月に『修正新案小学画手本』(金港堂)9冊、明治35年5月に『小学水彩画帖』(金港堂)1冊を刊行している。なお、この明治35年には、文部省が図画取調委員会を設置して普通教育に図画を組入れることを決定し、明治38年には鉛筆・毛筆それぞれの国定教科書を制定する。

明治35年9月17日に浅井は家族とともに京都に移住する。翌36年2月には『自在画教科書』(金港堂)6冊、39年10月に『水彩画帖』(金港堂)9冊、明治35年5月に『小学水彩画帖』(金港堂)1冊を刊行している。なお、この明治35年には、文部省が図画取調委員会を設置して普通教育に図画を組入れることを決定し、明治38年には鉛筆・毛筆それぞれの国定教科書を制定する。

# 京都工芸繊維大学基金への ご協力に感謝し、 心より御礼申し上げます。

本学では、皆様からの多大なご支援により

学生・教員への支援助成などの事業を実施しております。

昨年度の本学基金事業では、108の個人及び法人・団体様から

ご支援いただき、総額は38,922,550円に達しました。

皆様の深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本ページにおいて、昨年度実施した事業をご報告いたします。

## 寄附者ご芳名

※昨年度ご支援いただいた方のうち、お名前の公表をご了承いただいた方を50音順にご紹介させていただきます。

青木 康造 様	株式会社ナルックス	須磨 靖徳 様	古川 英樹 様
赤羽 浩一 様	代表取締役社長 高岡 岌史 様	妹尾 謙馬 様	前川 輝彦 様
浅田 聰 様	狩野 秀樹 様	高木 裕一 様	益岡 了 様・尚子 様
浅野 公允 様	川端 宗成 様	高須 壽一 様	松本 孝博 様
荒木 利之 様	河藤 誠一 様	竹田 慶明 様	松本 伸次 様
池本 博行 様	岸本 通雅 様	田中 順一郎 様	三好 広之 様
石見銀山建設株式会社 代表取締役 黒田 突義 様	北村 年史 様	崔 童殷 様	村山 秀郎 様
市川 弘 様	木村 剛 様	辻本 徹 様	森川 明子 様
伊藤 雄二 様	教職員共済生活協同組合 様	寺野 明弘 様	森迫 清貴 様
稻垣 実希 様	小島 佳代 様	戸田 稔子 様	森橋 俊文 様
岩下 直司 様	小林 照男 様	中島 將雄 様	諸岡 修一郎 様
岩見 達也 様	相模 泰造 様	中西 秀明 様	柳田 希 様
卯滝 秀樹 様	岩見 達也 様	野村 徹 様	山口 克彦 様
遠城 弘昌 様	色染 40会 様	畠 光 様	山崎 恒輝 様
大谷 孝司 様	嶋田 佳典 様	久山 貞迪 様	山田 浩志 様
岡田 博之 様	Sky株式会社 代表取締役 大浦 淳司 様	久山 徹 様	弓場 芳治 様
柏木 邦夫 様	菅原 啓高 様	平松 良夫 様	吉田 靖夫 様
金森 修 様	杉本 忠之 様	平見 拓也 様	京都工芸繊維大学同窓会 滋賀県支部 様
株式会社魁半導体 代表取締役 田口 貢士 様	鈴江 登 様	藤澤 幹雄 様	京都工芸繊維大学同窓会 様
	鈴木 良介 様	藤田 善敬 様	

お名前の掲載を希望されなかった方 個人29名、1法人・団体等



### ご寄附のお申込みについて

本学ホームページよりお申込みいただけます。また、クレジットカードでのお申込みも受け付けております。

皆様のさらなるご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

お申込み・お問い合わせ先

京都工芸繊維大学基金委員会事務局（京都工芸繊維大学会計課総務係） Tel:075-724-7045 E-mail:kitkikin@jim.kit.ac.jp

## 基金により実施した事業（令和2年度）

### 1. 人材育成基金事業

#### 国立大学法人京都工芸繊維大学基金奨学生（KIT基金奨学生）

5,000千円

大学院博士後期課程の優秀な学生を対象に奨学金を給付し、研究者として優れた人材の育成を図る。

実施期間 平成18年度～毎年度実施

対象 大学院博士後期課程所属学生

募集方法 公募（京都工芸繊維大学基金奨学生選考部会が選考する。）

#### 遠隔授業の受信環境整備に係る緊急無利子貸与奨学金

1,336千円【新規】

経済的理由により遠隔授業を受けるための通信機器を所持または利用できない学生への支援のため、遠隔授業受信環境の整備を図る。

実施期間 令和2年度～

対象 遠隔授業を受けるためのパソコン・通信機器を所持または利用できない学生

募集方法 公募（学生サービス課において選考）

### 2. 広報活動基金事業

#### 美術工芸資料館カレンダー作成

1,000千円

学内外との交流の促進に寄与するため、昨年度と同様に美術工芸資料館所蔵資料によるカレンダーを作成して高校、予備校、キャリアミーティング参加企業等に配布し、入試広報や就職支援に用いるとともに、同窓会や地域との交流活動に活用するための印刷費用の一部を補助する。

内容 美術工芸資料館カレンダーの印刷費

### 3. 指定基金事業

#### 学部1年次対象同窓会特別修学支援金

10,000千円【新規】

同窓会からの寄附による学部新入生への奨学支援金として、経済的支援を図る。

実施期間 令和2年度～

対象 令和2年4月に本学工芸科学部に入学した1年次生のうち、京都工芸繊維大学同窓会からの奨学金の給付を希望する者

#### KIT同窓会・KIT若手研究者支援プロジェクト

1,000千円

本学の中期目標・中期計画に掲げる新しいサイエンスとテクノロジーの開拓、調和型先端テクノロジーの実現に向かって、次代を担う若手研究者を対象として研究の更なる活性化と質の向上を目指し、研究支援事業に支援金を支給する。

実施期間 平成26年度～毎年度実施

対象 若手研究者

募集方法 公募（研究戦略推進本部に置かれた特別選考部会が選考する。）

#### 在学生課外活動環境整備事業

450千円

在学生の課外活動全般の施設・備品の充実のため、寄附者からの指定基金の受入れがあった場合に、当該寄付金を所掌部局に配分し、事業の推進を図る。

実施期間 令和元年度～

対象 在学生

### 4. 募金活動経費

#### 同窓会等への募金活動経費

181千円

大学基金の充実のための募金活動経費を計上する。

内容 募集案内関係書類一式の印刷費、封入費、郵送費等

## 「特別純米酒 綾部」に 地域Tech生の 作成した ラベルデザインが 採用されました

完成した「綾部」を手に笑顔の北浦さん

## 本学学生が設計した 「名勝 縮景園」内 トイレ 『木陰葺の東屋』が 竣工しました

縮景園の中に併む新たなトイレ

## 令和3年度 京都工芸繊維大学 入学宣誓式を 挙行しました

2021年4月5日[月]

綾部市は、市外に居住する方から年会費を募り、特産品の送付や行政情報の発信を通じて綾部の魅力を発信する「あやべ特別市民制度」を実施しています。

この度、「あやべ特別市民制度」の返礼品として若宮酒造株式会社が手掛ける「特別純米酒 綾部」に、地域創生Tech Program生（デザイン・建築学課程4回生）の北浦綾乃さんが作成したラベルデザインが採用されました。

北浦さんは昨年1月、「ものづくりインターンシップI」にて同社を訪れたことをきっかけに、日本酒のラベルデザイン製作に取り組んだことが実を結び、今回の結果につながりました。

採用されたラベルは、綾部に群生地がある植物「ミツマタ」をモチーフとしたポップなデザインを起用し、親しみやすさを持たせつつ、中央にオレンジ、赤、黒のカラーを配置し、「綾部」の文字を金色にすることで特別感も感じられるような、北浦さんこだわりのデザインになっています。

若宮酒造株式会社:  
<http://www.wakamiyasyuzou.com/main.html>  
※学生の所属は2021年3月時点のものです。



「ひろしま建築学生チャレンジコンペ2019」で最優秀作品賞に選ばれた本学大学院建築学専攻の由利光さん、生田海斗さんが設計した「名勝 縮景園」内トイレ「木陰葺の東屋」が竣工しました。

「ひろしま建築学生チャレンジコンペ」は、広島県が実施するもので、全国の建築学生を対象に、「魅力ある建築物の創造に向けた人材育成」の一環として行う全国唯一の公共建築物の設計コンペティションです。最優秀作品は実際の公共施設として事業化し、提案者が設計・監理に関わり実践現場を経験するという建築家の卵を応援する企画で、2018年度の日本建築学会教育賞を受賞した稀有な取り組みです。2019年の本コンペでは、「名勝 縮景園」の事務所棟東にある既存公衆トイレ（男性用・女性用トイレ及び多機能トイレ）の改築（建替）が対象でした。



由利さんは提案設計やコンペを振り返り「半透明のガラス屋根に映る木陰を介して名勝である縮景園の豊かな自然を感じられるトイレを目指し設計しました。長い歴史の続く場所に馴染み、その場所の魅力を感じられる建築となることを目指しました」と、生田さんは実際の設計や監理に携わり「これまで

「京都思考KYOTO Thinking」について語り、新入生に向けて熱い激励を述べました。その後、学部・大学院博士前期・後期課程の各代表達が学業に一生懸命励むことを力強く宣誓しました。

また、4月5日(月)及び8日(木)には、昨年度入学式が中止となった新2回生向けの課程ガイダンスにおいて、あらためて学長より入学への祝意が伝えられました。

森迫清貴学長は祝辞の中で、本学の歴史や育成する人

物像「テックリーダー」、また本学が新たに標語として掲げた



入学宣誓式

## 3Dスキャニング 技術を用いた 「岐阜大仏」の VR映像が 公開されています

D-lab News



こちらにアクセスいただくと  
VR映像をご覧いただけます



点群データに基づく「岐阜大仏」VR映像

KYOTO Design Lab [D-lab] は、岐阜市からの受託研究として、岐阜県岐阜市・黄檗宗金鳳山正法寺の「岐阜大仏」（釈迦如来像、岐阜県重要文化財）および「正法寺大仏殿」（岐阜市重要文化財）の3次元測量調査研究を実施しました。日本三大仏の一つとして知られている岐阜大仏は1832年（天保3年）に建立され、「乾漆仏」としては日本最大の大きさを誇ります。

木材と紙を用いて建立された不整形な大仏を3Dスキャン

することで、正確な形態を把握し、修理箇所の特定、構造補強、保存計画に役立てます。その成果物として、3Dスキャンによる高精細の点群データを三次元デジタルアーカイブとして保存し、利活用マニュアルを納品しました。

また、YouTubeの岐阜市公式チャンネルにてVR映像が公開されており、3Dスキャニング技術を用いた透視映像により、大仏殿の外観と大仏が安置された内部空間を擬似体験できるようになっています。



## 日本建築に関する 国際シンポジウム 「Transitional Space 移行する空間」が 行われました

D-lab News

D-labでは、2015年よりスイス連邦工科大学チューリッヒ校[ETH Zürich]のクリストフ・ジロー教授主催のランドスケープ研究室と、日本庭園の3Dスキャンとフィールドレコーディングによる共同研究を行ってきました。

2019年は「点群都市」をテーマに、住宅と都市との関係に着目し、京都、大阪、東京の3都市、計6軒の住宅を調査。人口が集中する都市において、どのように周囲との関係を構築しているのかを検証しました。そこでの成果を踏まえ、3Dスキャ

による建築の新たな可能性を議論するオンラインシンポジウム「Transitional Space」が、5月27日（木）に開催されました。

ETHからはジロー教授やクリスチャン・ケレツ教授らが、本学からは小野芳朗教授、エルウィン・ビライ客員教授、木村浩之特任教授、木下昌大准教授らが参加し、調査対象の住宅設計に関わった建築家らとともに、古い街並みに新しい建築を共存させること、町家についてまで、さまざまな議論を交わしました。

## Transitional Space 移行する空間

JAPANESE HOUSES  
THE 3D DIGITAL SCANS  
データスキャナによる点群

LIVE Conference 27. May 2019, 9am–12pm (CET)  
Zoom ID: 931 7278 1219 | Password: 9831996583  
Online オンライン: <https://zoom.us/j/93172781219>

More info: <https://arch.ethz.ch/events/conference/transitional-space-japan/>  
Produced and organized by the ETH D-ARCH Chair of Landscapes Architecture of Professor Christophe Girot in collaboration with the KIT KYOTO Design Lab.

09.00 WELCOME  
Carsten Stuebe (ETH Zurich), Yoshio Ono (KIT Kyoto)  
Intro: Ladislav Pinger, Dennis Höller, Lucas Overath, Miriam Ueber, Matthias Vollmer

09.10 ROUND TABLE 1 – LIVE  
Nishiarai-koen (By Tadao Ando) +  
Arashiyama Building (By Kenzo Tange)  
with Shinji Kurokawa, Ryue Nishizawa, Masahiro Kishimoto,  
Oscar Niemeyer, Kenzo Tange, Gehrard Schindler  
Moderator: Erwin Virág

10.15 ROUND TABLE 2 – LIVE  
Garden Alley House (By Alphaville Architects)  
with Takao Kigawa, Jörg Kühlwein, Kenzō Tange,  
Ingo Vitzl, Iain De Victoria, Asako Yamamoto  
Moderator: Erwin Virág

11.20 ROUND TABLE 3 – LIVE  
Sala Melech (By Atelier Bow-Wow) +  
O-House (By Ryue Nishizawa Architects)  
with Munoz Kajima, Etsu Okuda, Laurent Staiger, Yoshitomo Tsuchida  
Moderator: Erwin Virág

12.15 CONCLUDING DISCUSSION – LIVE  
Moderated by Christophe Girot and Erwin Virág



(左) シンポジウムのポスター  
(右上) 3Dスキャニングデータから  
映像作品を編集

## 令和4年度(令和3年度実施)入学試験関係日程表 | 学部

入試種別	出願受付期間	試験実施日	合格者発表日	入学手続期間
私費外国人留学生入試	8月19日[木]~8月24日[火]	9月17日[金]	9月29日[水]	3月9日[水]~3月15日[火]
ダビンチ入試(総合型選抜)	9月1日[水]~9月9日[木] 最終選考   11月6日[土]	第1次選考   10月9日[土] 最終選考   11月17日[水]	10月20日[水] 11月18日[木]~11月25日[木]	11月18日[木]~11月25日[木]
学校推薦型選抜 (地域創生Tech Program【地域】)	11月22日[月]~11月29日[月] ※ネット出願登録は11月25日[木]まで	12月18日[土]	2月9日[水]	2月10日[木]~2月16日[水]
一般選抜	前期日程   1月24日[月]~2月2日[水] 後期日程   1月24日[月]~2月2日[水]	2月25日[金]/26日[土] 3月12日[土]	3月8日[火] 3月23日[水]	3月9日[水]~3月15日[火] 3月24日[木]~3月27日[日]

上の表は令和3年6月30日時点のものです。必ず最新の情報をホームページ等で確認してください。

詳細は各募集要項にて確認してください。

新型コロナウイルス感染症の拡大状況等により、試験内容を変更する可能性があります。

## 令和4・3年度(令和3年度実施)入学試験関係日程表 | 大学院

入試種別	出願受付期間	試験実施日	合格者発表日	入学手続期間
	第Ⅰ期   出願受付終了	8月19日[木]/20日[金]	9月1日[水]	11月18日[木]~11月25日[木]
博士前期課程(修士課程) 一般	第Ⅱ期   9月7日[火]~9月14日[火] (資格認定申請締切 7月30日[金])	10月16日[土]	10月20日[水]	11月18日[木]~11月25日[木]
	第Ⅲ期   1月5日[水]~1月12日[水] (資格認定申請締切 11月25日[木])	2月8日[火]	2月18日[金]	3月22日[火]~3月27日[日]
博士前期課程(修士課程) 社会人	第Ⅰ期   出願受付終了	8月19日[木]	9月1日[水]	11月18日[木]~11月25日[木]
	第Ⅱ期   1月5日[水]~1月12日[水] (資格認定申請締切 11月25日[木])	2月8日[火]	2月18日[金]	3月22日[火]~3月27日[日]
博士前期課程(修士課程) 外国人留学生	1月5日[水]~1月12日[水] (資格認定申請締切 11月25日[木])	2月8日[火]	2月18日[金]	3月22日[火]~3月27日[日]
博士前期課程(修士課程)秋入学 一般/社会人/外国人留学生	出願受付終了	8月19日[木]/20日[金]	9月1日[水]	9月3日[金]~9月9日[木]
博士後期課程 一般/社会人	第Ⅰ期   8月30日[月]~9月3日[金] (資格認定申請締切 7月30日[金])	9月16日[木]	9月29日[水]	11月18日[木]~11月25日[木]
	第Ⅱ期   1月5日[水]~1月12日[水] (資格認定申請締切 11月25日[木])	2月8日[火]	2月18日[金]	3月22日[火]~3月27日[日]
博士後期課程 外国人留学生	1月5日[水]~1月12日[水] (資格認定申請締切 11月25日[木])	2月8日[火]	2月18日[金]	3月22日[火]~3月27日[日]
博士後期課程秋入学 一般/社会人/外国人留学生	出願受付終了	8月19日[木]	9月1日[水]	9月3日[金]~9月9日[木]

実施する専攻については、各募集要項にて確認してください。

新型コロナウイルス感染症の拡大状況等により、試験内容を変更する可能性があります。

## 8月以降の主なイベント

開催日	イベント	参加費	参加申込の必要	問い合わせ先	会場
8月9日[月]~10日[火]	オープンキャンパス2021	無料	有	総務企画課広報係 TEL   075-724-7016 E-mail   kit_oc@jim.kit.ac.jp	Web及び現地のハイブリッド型開催

## 美術工芸資料館展覧会

開催期間	展覧会名等
2021年6月21日[月]~9月11日[土]	岸和郎: 時間の真実 Waro KISHI_TIME WILL TELL
2021年7月26日[月]~9月11日[土](予定)	40周年記念企画展 新デザインへの渴望 一京都高等工芸学校とドイツ・オーストリアのアール・ヌーヴォー
2021年9月27日[月]~11月6日[土](予定) ※詳細は決定次第、美術工芸資料館HPでお知らせいたします。	40周年記念企画展 美術の教育/教育の美術
2021年11月15日[月]~12月25日[土](予定) ※詳細は決定次第、美術工芸資料館HPでお知らせいたします。	40周年記念企画展 戦後日本のグラフィック

### 大学公式SNS

日々更新中です。ぜひご覧ください。

KITnews Vol.57

[Twitter]



@pr\_kit

[編集/発行] 発行日: 2021年7月28日[水]

京都工芸織維大学広報委員会

〒606-8585京都市左京区松ヶ崎橋上町

[Facebook]



[https://www.facebook.com/  
KIT.Kyoto](https://www.facebook.com/KIT.Kyoto)

表紙写真は、KYOTO Design Labから見た

東1号館の壁面を撮影したものです。

東1号館には、デザイン・建築学系の教員の研究室が多く集まっています。

表紙裏P1-2の写真は、

KITnewsをお読みいただき、ありがとうございました。

今後のKITnewsの改善・充実を図るため、

13号館の壁面を撮影したものです。

13号館には、オープンファシリティセンターが管理する

実験装置が設置されています。

アンケートを実施しています。

アンケートにご協力いただいた方に、

ご希望の方は、お名前・ご住所等のご入力が必要です。

本学オリジナル付箋紙を進呈いたします。

下記URLまたはQRコードより、

Web回答フォームでご回答いただけます。

実験装置が設置されています。

(回答期限 2021年10月31日[日])

ご協力よろしくお願いいたします。



[https://www.kit.ac.jp/kitnews\\_anketo/](https://www.kit.ac.jp/kitnews_anketo/)

